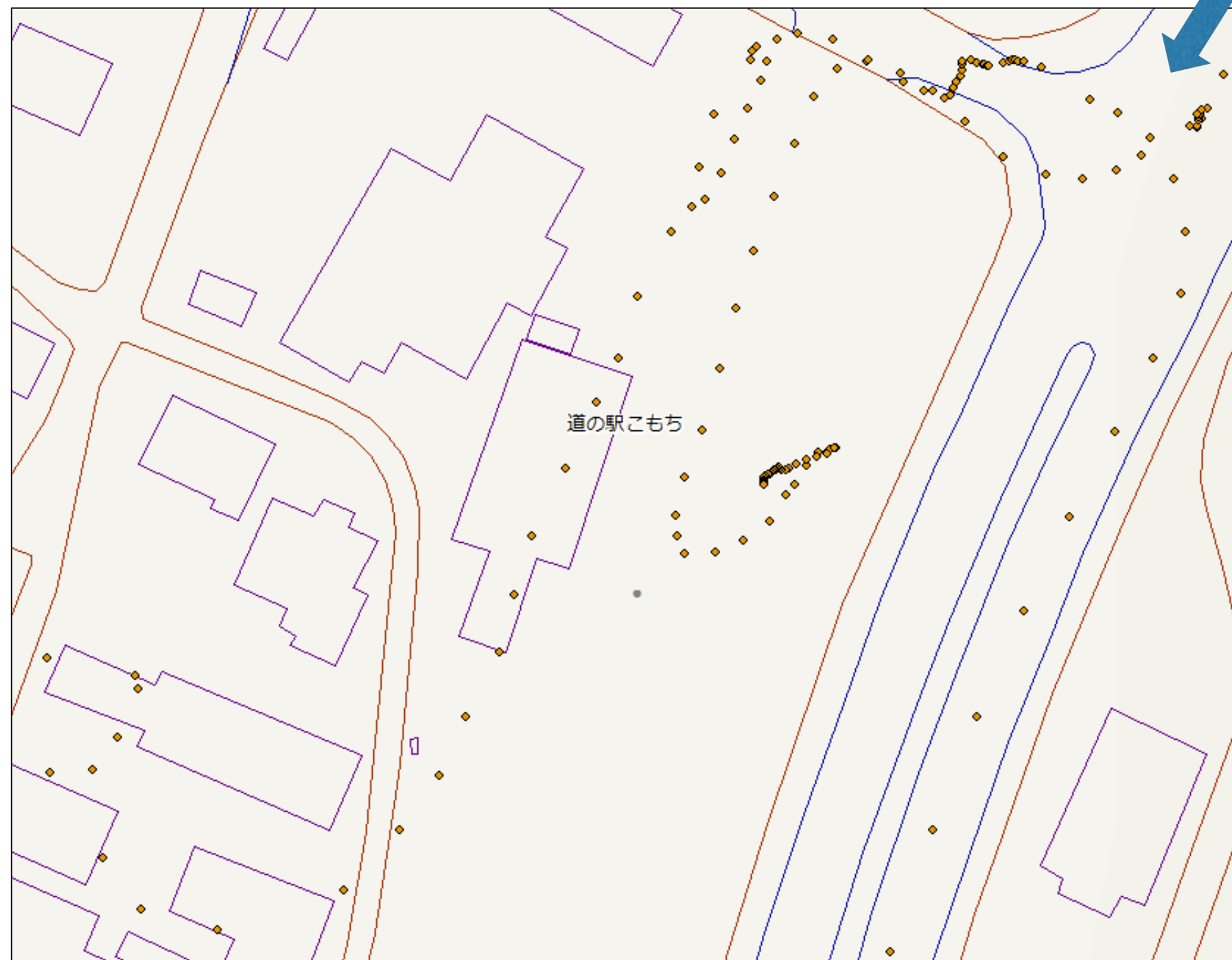


L1S補強  
14

L1S補強有り



L1S補強無し





# CUSTOMER STORY

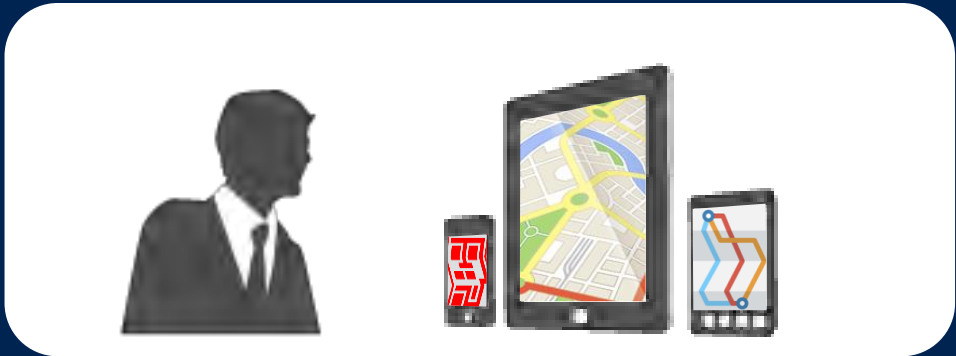
# HONDA R&D CO., LTD

多数の施設内で管理され、広大な敷地で試験される車両を屋内外でシームレスに位置測位できるGNSS端末により瞬時に探せることで、開発工程の効率化に成功

QZSS  
GPS  
GLONASS



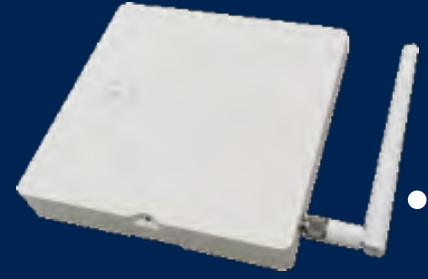
HONDA DATA CENTER



HONDA TEST VEHICLES MANGEMENT



SOFTBANK NETWORK



IMES DEVICE  
**IMES**



# IoTを活用して路面情報を検知する実証実験を 宇治市で実施

2018年6月29日

宇治市

ソフトバンク株式会社

宇治市（市長：山本 正）とソフトバンク株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 社長執行役員 兼 CEO：宮内 謙、以下「ソフトバンク」）は、2018年7月1日から2019年3月31日まで、IoTを活用して路面情報を検知する実証実験を京都府宇治市で実施します。

今回の実証実験では、株式会社村田製作所が開発した「路面検知システム」と、高精度な位置測位を可能にするソフトバンクの技術を組み合わせ、配送業などの商用車両に搭載して宇治市内の路面情報を収集します。カメラや加速度センサー、ジャイロセンサーなどを用いて路面の状態を把握する「路面検知システム」に、準天頂衛星を利用して高精度な位置情報を連携させることで、路面の状態と場所を正確に把握できるようになります。収集したデータは、ソフトバンクのIoTプラットフォームを利用して、一元管理できるようにします。

これまで路面の状態を把握するためには、熟練した作業員が専用車両を使って定期的に巡回する必要があり、多くの費用や時間がかかっていましたが、IoTを活用して効率的に路面の状態を把握することで点検にかかる費用や時間を抑えられるようになります。さらに、日常的なモニタリングによって早い段階で劣化を発見して対処するなど、従来の事後保全から予防保全への転換が可能となり、道路の維持管理にかかる費用も削減することができます。

ソフトバンクは、今回の実証実験を通して、路面情報の収集に必要な車両数の検証や収集データの精度の確認、路面の状態を自動で解析するシステムの検証などを行い、商用化に向けてソリューションの構築を目指していきます。